

育児をしながら働くのが「当たり前」なんです。



グローバルマーケティング株式会社

所在地:長岡市 業種:専門・技術サービス業 従業員:55人

業務内容

マーケティングを活かして地域の中小企業の経営サポート事業を展開。企画・運営を行っている新潟の子育て家庭を支援する会員組織「トキっ子くらぶ」は、今年で11年目を迎える。



人財開発室 星名 亜紀 さん

こんな取組を推進しています!

取組1

テレワークの実施

在宅勤務で通勤時間を削減し、育児や家事などに有効活用

取組2

10の委員会、クラブ活動

事務所や部署を超えたコミュニケーションの場を設ける

取組3

「お互いさま」の風土を浸透

働きながら育児をする社員同士が助けあう職場に

男性女性に限らず、子育ての期間は限られています。「限られた時間の中で、精いっぱい子育てに携わってほしい」という思いは、運営している「トキっ子くらぶ」事業だけでなく社員に対しても同じ。当社では、多くの社員が働きながら育児をしているので、「お互いさま」の思いで助け合う風土が根付いています。

意識的に環境改善に取り組むために、社員自ら委員会制度を導入。全員が必ずいずれかの委員会に所属しています。現在は個性豊かな10の委員会が発足しており、さまざまな活動を展開中です。例えば、「大家族実現委員会」は社員の家族を招いての会社見学ツアーを開催。いつもは入れない仕事現場の見学に、子どもたちも大興奮。家族との時間を持つとともに、仕事への理解を深めてもらう機会にもなり、有意義なイベントとなりました。

また、社内活性化委員会では社内交流イベントの一つとして、社長も交えて定期的に「ランチコンパ」を開催しています。毎回異なるテーマを設定し、和気あいあいと本音で語り合う場です。「働きがい」や「自分の好きなこと」などをテーマに語り合い、普段は聞けないような意外な発見があり、毎回大盛り上がり企画。ただ楽しいだけではなく、社長のビジョンを全員で共有し、組織づくりを高めることにつなげるようにしています。他にも、「図書研修委員会」「ありがとう委員会」「フィロソフィ共有委員会」などがあり、社員の成長や交流を支援する取組を社員が主体的に行っています。部署や部門の垣根を越えたこの活動は、相互理解を深める良いきっかけになっています。

育児休業制度はもちろん、記念日休暇制度や子の看護休暇制度など、支援制度も整えています。ですが、自然にサポートしあう風土を培っていくことが何よりも働きやすさに繋がるのではないのでしょうか。これからも、「お互いさま」の風土を守り、制度の利用促進に力を入れていきます。

イクメン社員
福間 俊宏 さん
(41歳)

4カ月の育児休業は、3週目でくじけそうになりました。

妻の希望もあり、第3子が3カ月になった時に妻と入れ違いで育児休業を4カ月取得しました。最初は赤ちゃんの反応全てが新鮮で、赤ちゃんとの生活を楽しんでいました。ですが、3週目あたりから「これがあと3カ月も…」と大変さを感じるように。小学校と幼稚園が冬休みに入ると、3人の世話でてんこ舞い。第3子が寝ているうちに家事を済ませ、日中は子どもたちの遊び相手をしたり、娘2人とゆっくり話をする時間に充てました。充実していましたが、自分の時間を取れず、気分転換ができなくて大変でした。世の中の「母」の偉大さを再認識しましたね。

復職後は、時間内に業務を終えるため仕事の密度を高める、急な休みに備えて先々の仕事を前倒しで取り組むといった意識が強くなりました。育児休業のおかげで、子どもたちへの理解が深まり、仕事に対する考え方も大きく変わったと感じています。全国のお父さんには、機会があれば育児休業を3週間は経験してほしいです。本当にいろんな発見がありますよ!

2018年3月発行



私たちはイクメン応援宣言企業です!

新潟県では、男性労働者が育児に参加しやすい職場環境づくりに積極的に取り組む企業を「イクメン応援宣言企業」として登録しています。

もっと詳しく知りたい方は

にいがたイクメン応援宣言



<https://niigata-ikumen.jp>